

連載

当世流行事情

この頃にはやる物……

国立大学

橋爪大三郎

国鉄なみの粗大ゴミという本性が、だんだんばれかかっている国立大学。かの国鉄労組はあえなく潰れてしまったが、輝く教授会の自治のほうは、労使一体というわけで、なかなか手強い。

たんまり税金を使っている国立大学が、いったい誰のために存在しますかと訊かれて、「おれ達のため」とすんなり答えてくれる国民はまず見つからないんじゃないか。みすみす月謝の安い国立大を横目に、大枚はたいして私大に通わせている親がほとんどなんだから。それでも元手相応の見返りが期待できるなら、まだあきらめもつく。ところが東大あたりがやたら威張りくさり、その親も軒名高額所得と聞いたりすれば、てやんでえほどの税金使っている気になんなど、悪態のひとつもつきたくなる。

ふた昔かそこらも前なら、国立大といえば、学生は刻苦勉励、そのうえ親孝行で、教授も知識人として尊敬を集める、というイメージが立派に通用していた。ほんとうにその通りなら、税金も払い甲

斐があるというもの。国民も懐を痛めつつ納得もする。ところが実態はそうでもなかった。ナンダこんなもの、とゲバ学生がひと暴れしてみるとあら不思議、騒ぎが落ち着いてみれば世評も一変していた。どうせ小心で世間知らずのおっさんが、寄り集まって、役立たずのごたくを並べてるだけじゃないか。言えているねえ。学生気質も様変わり。今じゃ大抵の若者は、大学にたどり着くまでにいい加減勉強にうんざりして、ひたすら軽く、表面で世を渡ろうとする。サークル熱心なくせして、本は読まないし、ごほうびに四年間思ぬきさせてくれた。

そうか、わかった。よつく考えてみると、国立大学とはまず、教授助教授のためにある。私大の給与に見劣りしないでもないが、宿舎や年金、こみで、ま、とんとん。業績ゼロでも学生の相手がつとまりや誠にはなんない。こんな呑気な商売、ほかにありますか？ ついでに言えば、国立大の在学生も、けっこう得をしている。月

謝の何倍、いや何十倍も経費をかけてもらってね。おまけに旧帝大卒ともなれば、まアさぞかし試験が大変だったごんしょーね、娘の婿にどうかしら、てな具合で、卒業しておいて損はない。

でも、こういううまみは要するに、他人を踏台にしようという話でしょ。まっことけしからん。国民に敵対する気か。税金を使うんなら、もそつと納税者のこと考えてやらなあかんぜよ。

\*

国立大学は一丸となり、日夜国民のため粉骨砕身、研究教育に邁進しています。——こう信じこんでいるお人好しが、もしまいたらパンダ並みの珍獣だ。はげたメッキの金看板。しかし、受験界に冠たるそのランキング・システムのほうはいまだ健在。親父の身としては、息子・娘が何かのほずみで一流国立大とやらに入学でもしようものなら、ついつい自慢したくなるのが人情でしょう。人気があるから試験が難しいのか、試験が難しいから人気があるのか。何がなんだかわからないまま、受験戦争はますます過熱の一途、高校から中学校・小学校にいたるまで、大学受験こそ教育の目的だと言わんばかりのありさまだ。

受験の弊害は言われ尽くして久しいので、ここで繰り返しても無駄というもの。ただ、これほど反対の少ない議論もないのに、そのわりにちっとも解消されない。何か変だと思いませんか？

こういう現象のおおもとは、親のエゴが控えているから、おそれとは退治できないわけだが、国立大学がそこに一枚噛んでいるとしたら、許せないではないか。口できれいごとと言っても、本心が

かけ離れているんだから。

私大も含めて大学の考えていることは、どこも同じ。なるべく出来るいい学生が、どうかたくさん集まりますように。たしかに誰も来てくれないんじゃない、大学はつぶれてしまう。その心配はごもつとも。だけどよく考えてください。学力のない人間でも、入学させてからみっちり鍛えあげ、学力をつけて送り出すのが、教育ってものじゃないか。はじめから出来がいいんなら、なにも教育するまでもない。ここにひとつ、考え違いがありませんか。

出来のよしあし＝能力、そのうえで努力する＝学力、という区別がつくのなら、出来のよい学生やいいという大学の気持も一応理屈は通る。しかし、だ。もともと受験生の全体が決まっているところに、うちには出来のいい学生を、と言っただけじゃ、出来のわるい学生をよその大学に押しつけているのと同じじゃないか。そんなのは大学の都合であって、世の中に通じる話かい？ それにそもそも「出来のわるい学生」なるものを勝手に作りだしているのが、試験というもののなだけども、これを大学エゴと言わずして何と言おう。

出来のよい（＝恐らく勤勉な）学生を集めれば、教育の時間は省けるかもしれない。つまり、教授は怠けても恰好になる。いっばう、出来がわるいと烙印を押された学生は、気落ちして、勉強どころではないだろう。そこでやっぱり、教育は成り立たなくなる。つまりどう転んでも、入学試験を厳格に実行すると、そのあと学校は教育機関として機能しなくなる。これは科学の時代から証明済みなことなので、「受験の法則その1」と名付けよう。

さて、私立は私立で建学の理念を持ち、競いあって社会に貢献するのはよいことだ。適度な競争は組織の贅肉をそぎ落とし、合理化を進むだろう。国立大学は、じゃあどうか。建学の理念こそないものの、学校には学校の伝統が育まれるものだ。地域との結びつき、学部学科の構成、同窓生の活躍。これらが、魅力ある校風をかたちづくる。少なくとも、かつてはそうだった。こういう学校の個性によって、学生を魅きつける競争なら、大歓迎である。

これをぶち壊してしまったのが、ほかならぬ国立大の共通一次試験である。これがどんなに愚かで犯罪的な所業か、関係者はまだとくとわかっていないようなので、くどいようだが、ここはとっくり説明しなければならぬ。

共通一次試験の最大の害悪。それは、教育現場を偏差値信仰でがんじがらめにしてしまったことである。この損失は、数百兆円と見積もってもまだ足りない。

大学のセンサーがたには血のめぐりの悪い人もいるらしいから、こう言ってもピンとこないだろう。そんなつもりありませんでした。予備校が悪いと思います。ん？ いまさらなに言ってるんだい。あのねえ、偏差値が社会的に機能するには、大規模で全国的な共通試験が必要なの。そんな試験やってんの、国立大学だけじゃなか。だから責任はあんたにあるんだよ。これで日本中の学生がどんなひどい目にあつたか考えたら、あんたら、ただじゃ済まないよ。でもまあ、話には順序というものがある。そも、偏差値とはなに

か。このあたりから確認していこう。

偏差値は、標準偏差を10倍して50を加えただけのもの。魔法でもなんでもない。ところが、この偏差値がひとり歩きを始める。73なら、百人にひとりの秀才。50ならやっと人並み。これには科学的な根拠があるんだぞ……。だがまっけてくれい。それは卑俗な解釈というものだ。偏差値はある試験の得点分布のなかで、誰がどの辺に位置するかを示すものにすぎない。つまり、一回限りのものだ。別の試験にはまた別の偏差値がくっついてくる。それがさっきの偏差値と一致する保証はぜんぜんない。

ただ、こういうことは言える。似たような試験を繰り返す場合、同一人の偏差値は(統計的な誤差の範囲で)似たような値をとるだろう。本番そっくりの予備試験は、本試験の予測に使える。予備校の模擬試験の原理がこれだ。偏差値の効用もここにある。

私が受験生だった頃、偏差値なんてのはまだお呼びじゃなかった。理由は簡単。コンピュータの料金が高すぎたんだ。偏差値の計算式は情けなくなる位単純だが、なんせ手計算では間にあわない。それに合否を判定するには、総得点(席次)さえ分かればよいから、誰もそんなもの計算しなかった。まもなく大手の予備校がやりはじめたけど、大勢の解答をいちど採点するのに、マークシートほど便利なものもない。ついでに偏差値も計算できるし。けれどこの段階で、偏差値を進路指導に使うとすると、かなり不正確なものになる。いくら大手の模擬試験とはいっても、総合感覚みたいなもので、どの大学の試験にもピッタリ、というわけにはいかないか

らだ。本試験が多様で個性的なら、一律の模擬試験は予測能力が低い。ゆえに、偏差値も大きな顔ができない。

マークシートは客観的というけれど、記述式に比べて不自然で、いいところはほとんどない。本来、学部単位の入試にわざわざ採用することはないんだ。まあ、大勢の人間の基礎知識の習得程度を確認、すなわち、資格試験に適しているとはいえるだろう。

さてお立会い、世の中には、資格試験と競争試験の二種類がある。資格試験はパスすれば全員合格。大検や運転免許の試験がこれだ。競争試験は成績順で定員まで合格。大学入試がそうですね。両者は性格がまるで違う。資格試験は誰でも知っているといけないうことだけを、広く浅く訊くべきだ。それに対して、競争試験は、本人の得意なところをじっくり深く尋ねるのがよい。

このふたつの試験をこっぴどにされたんじや、えらいことだ。資格試験の問題で競争試験をすると、受験生は条件反射の二十日鼠になっちゃう(受験の法則その2)。だがそういうアホをやった奴が

いるんだ。共通一次試験。あんな多科目の達成度テストを、入試に使っちゃいかんよ。あれで、学生の個性も大学の個性もメチャメチャになつてしまった。ま、それで国立離れが起こったのだから自業自得というものが、こりずに今度はAB日程だとき。足切り逃れのとぼっちりで私大受験生まで、えらい迷惑してるよ。

国立大学がとにかく、共通試験などしちやいかん。予備校の進路指導がばっちりの中ずらしたような感じじゃないか。かくして偏差値王国の支配が、偏差値というものは、人間の相対評価でしょう。こんなものが幅を利かせてるあいだは、個性の創造性のこと言っても、絵空事もいいことですよ。試験も多様で、それなりに出来あがりかかっていた自生的秩序をぶち壊し、大学序列化の上塗りをした国立大学の罪は重い。こんなわけわからん連中に、国立大学を任せ

ておいていいのか。すべての大学を私立大学に、と私は言いたい。(はしづめ・だいさぶろう 社会学者)

ダイナミックでセンサーシヨナルな近未来経済情報小説!

# 小説 半導体競争

杉田望

●定価1,500円

アメリカの真の狙いを追求する三人のスペシャリスト。動揺する日本の業界と対応に苦慮する通産省の役人たちの人間像をなまなましく活写。佐高信氏激賞!

講談社